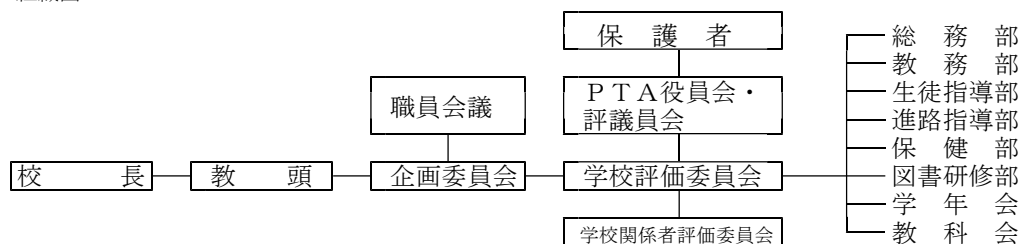


学校評価

(1) 学校評価のための組織

組織図



(2) 学校評価の年間計画

月	実施内容
4月	学校自己評価表の作成
5月	本年度の重点目標の公表
6月	第1回学校関係者評価委員会開催
10月	前期自己評価と後期課題の検討
2月	PTA役員・評議員及び学校評議員による外部評価及び自己評価
3月	第2回学校関係者評価委員会開催 本年度の学校評価結果のまとめと次年度の課題

(3) 本年度の学校評価

本年度の重点目標		生徒指導、学習指導及び進路指導を充実させ、信頼される学校づくりを目指す。	
項目	重点目標	具体的方策	留意事項
学習指導	学習習慣の確立	家庭学習の充実を図り、学習習慣の確立と学力の定着を図る。	日々の授業と家庭学習の一体化を目指す。家庭における予習・復習への取り組みを習慣化させる。また生活記録表の記入をとおして、家庭での学習状況を自己管理させ、学習に対する意欲を向上させる。
	確かな学力の育成	継続的な授業改善を図り確かな学力を身に付けさせる。	・生徒に対する授業アンケートを今年度も継続して実施し、アンケートの分析等により、客観的な視点で効果的な授業改善を図る。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	身だしなみ指導や欠席、遅刻防止指導や交通安全マナー指導の確立を図る。	・定期の身だしなみ指導でルールを確認させ、日常の身だしなみについて全教員で指導する。違反を繰り返す生徒には「生徒指導カード」を活用する。 ・生徒指導部が毎日の出欠状況を管理し、該当生徒の早期発見、段階的指導や相談をすみやかにおこなう。 ・年度始めの校外登下校指導を学校全体で積極的に行い生徒に交通マナーを遵守させ、地域の協力を得る。
	豊かな心の育成	学校行事等への積極的な参加やボランティア活動への参加を働きかける。	・生徒会を中心に魅力ある行事内容に改善を図り、生徒が満足感、有用感を感じられるものにしていく。 ・ボランティア部を中心に参加生徒を増やしていく。ボランティアの意義について機会あるごとに話をして生徒が積極的に参加できるような雰囲気作りを工夫していく。
	いじめ防止	いじめ禁止・防止活動やいじめ認知の情報収集を定期的に行う。	・入学式や全校集会でいじめは絶対に許されない行為であることの話をする。 ・定期的ないじめ調査や相談委員会をおこない、いじめの早期発見に努める。 ・いじめ問題に対しては毅然とした指導をおこなう。
進路指導	主体的な進路選択能力の育成	段階的かつ継続的に進路ガイダンスを実施する。	・生徒が自ら進路について考える一助となるよう、各学年で段階に応じた進路ガイダンスを計画実施する。1年次のキャリアプランニング能力の促進を目的とした外部講師による講演、2年次の文理別、学問分野別ガイダンスなどを充実させる。

	新入試への対応	大学入学共通テストで求められる力の養成と、活動報告書、新調査書への対応を万全に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育成するための諸活動を学年、他分掌と連携し実践する。 ・活動報告書の作成に向け、生徒の探究活動をより充実させ、活動実績を確実に記すようにする。 ・教務部と連携し新調査書を作成する。
保 健	環境整備の推進	全員清掃及び汚させない指導の徹底を図る。 安全点検を確実にしない危険箇所をなくす。	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら率先して、清掃や校内美化に取り組む姿勢や態度を育てる。 ・教室環境の整頓、ゴミの持ち帰り指導の徹底を図る。 ・安全点検を確実にしない、処置を早急に行わない、危険な箇所をなくす。
	教員の長時間労働による健康障害の防止	安全衛生委員会を通じた勤務時間の適正な管理と教職員の健康維持に配慮した体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間等の状況調査の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、ストレスチェックの結果の活用や高ストレス者に対する医師の面接指導を通じて、教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。 ・定時退校日を周知徹底するとともに解錠・施錠時刻を守るようにする。
	教育相談の推進	校内組織の連携と効率化を図る。情報の共有を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年主任、スクールカウンセラー、その他の関係職員の情報共有の充実を図り、生徒に対するきめ細やかな相談、指導を実施する。
図書研修	図書貸出数の増加	図書館の利用を呼びかけ、来館者、貸出冊数の増加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・タイミングをとらえた来館案内ボード、「らいぶらりい」のクラス掲示、来館者が心落ち着ける雰囲気作りを、図書委員とともにすすめる。
	現職研修の充実	AED講習会や初任研・10年研参加者の報告会を実施し知見を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健部や初任研・10年研受講者と相談しながら、参加職員の知見が深まるよう工夫する。
総 務	保護者との連携	PTA活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員との協力関係をこれまで以上に強化するとともに、評議員との意見交換ができる機会を増やせるようにする。
	防災意識の充実	防災意識の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「激甚災害時の行動マニュアル」の内容を職員に周知徹底し、防災訓練に臨めるようにする。
学校関係者評価をする主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導における学習習慣の確立、基礎基本の徹底、授業改善の推進について ・生徒指導における基本的な生活習慣の確立について ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組について ・生徒の能力、適正に応じた進路指導の実現について ・新入試制度に向けた取組について ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止について 	

(4) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標		生徒指導、学習指導及び進路指導を充実させ、信頼される学校づくりを目指す。	
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導	学習習慣の確立	家庭学習の充実を図り、学習習慣の確立と学力の定着を図る。	学習指導は、授業の予習や復習、定期考査や小テストと連動した形で習慣付けを行っている。課題の提出指導は、学年と教科担当が連携を図り、丁寧に行った。特に、長期休業中の指導は、提出ができるまで粘り強い指導や声かけを行うことができた。
	確かな学力の育成	継続的な授業改善を図り確かな学力を身に付けさせる。	今年度も「生徒による授業充実に関するアンケート」を実施した。アンケート結果の分析をするとともに、6月に実施された公開授業のアンケート結果も参考にしながら、継続的な授業改善への取り組みをしていく必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	身だしなみ指導や欠席、遅刻防止指導や交通安全マナー指導の確立を図る。	身だしなみで女子ブレザーボタン、男子制服第1ボタンを留める注意はあったが、概ね良好であった。遅刻数が全学年で増加した。遅刻生徒個別の事情がある場合がほとんどである。保健部相談係と連携して改善したい。県下5校が選ばれる「自転車無事故、無違反ラリー」の表彰を1月に受けた。今後も自転車の安全運転指導を続けていきたい。

	豊かな心の育成	学校行事等への積極的な参加やボランティア活動への参加を働きかける。	生徒会中心に魅力ある行事内容に改善を図り、生徒が満足感、有用感を感じられるものができた。学校祭の学校会場も2年目となり、スムーズな運営ができた。ボランティア部を中心に活動回数が増えた。参加人数はほぼ同じであるので生徒が積極的に参加できる環境を作る。
	いじめ防止	いじめ禁止・防止活動やいじめ認知の情報収集を定期的に行う。	入学式、全校集会で「いじめは絶対許さない」姿勢を示した。定期的ないじめ調査や相談委員会でいじめの早期発見に努めている。いじめ問題は毅然とした態度を示し、組織で対応する。
進路指導	進路選択能力の育成	段階的かつ継続的に進路ガイダンスを実施する。	各学年において総合学習の時間を活用して外部講師による進路講演会を実施した。大学での学びの意義、今後社会で求められる力、新入試情など目的を明確にして行うことができた。今後も進路を主体的に考える力を育てることを目的として、学年と連携し、3年間を見通した進路指導を実践する。
	大学入学共通テストへの対応	新テストで求められる力を確実に身に付けさせるための諸活動を工夫実践する。	新テストに関して多くの変更点があったが、求められる力については一定の方向性が示されている。今後も情報を収集し、各教科で分析と具体的な対応をしていく必要がある。ポートフォリオについては紙媒体で蓄積した活動実績のデータ化、新調査書についての対応もこれからである。
保 健	環境整備の推進	全員清掃及び汚させない指導の徹底を図る。安全点検を確実に行ない危険箇所をなくす。	各自のゴミの持ち帰りや分別について概ねできているが、土曜学習会などの後に徹底できていないことがある。清掃場所によって、特にトイレや渡り、階段など汚れている箇所があるので、清掃の徹底と美化意識を向上させたい。安全点検が適正に行われているので継続していきたい。
	教員の長時間労働による健康障害の防止	安全衛生委員会を通じた勤務時間の適正な管理と教職員の健康維持に配慮した体制を構築する。	今年度より、解錠・施錠時刻が設定され、在校時間を減らそうとする意識が高まり、実際、昨年度よりも若干ではあるが減少している。さらに、行事等を精選し、業務量の平準化を図り、職員の健康維持に配慮した体制を構築していかなければならない
	教育相談の推進	校内組織の連携と効率化を図る。情報の共有を充実させる。	担任による朝の健康観察が定着している。相談が必要な生徒の関係職員とスクールカウンセラーとの情報共有ができています。相談委員会が定期的に行われて、的確な報告、情報の共通理解ができており、必要な援助が行われている。また、保護者からの生徒に対するかかわり方などの相談が増えているので、これからしっかりと対応していきたい。
図書研修	図書貸出数の増加	図書館の利用を呼びかけ、来館者、貸出冊数の増加を目指す。	3月2日までに2966冊の貸出があり、昨年度より750冊増加した。ただ、貸出が多読者に偏っており、普通の生徒が日常的に本に触れるよう工夫したい。
	現職研修の充実	AED講習会、進路に関する研修会を実施し、多くの職員の参加を促す。	AED講習会には生徒職員100名弱、新テストについての現職研修にも多くの先生方の参加があった。11月の研究授業週間ではのべ58名の意見交流が行われた。
総 務	保護者との連携	PTA活動の活性化を図る。	PTA役員と協力し、大学見学や学校祭における模擬店などを実施できた。意見交換ができる機会を増やし、関係を強化したい。
	防災意識の充実	防災意識の向上に努める。	年2回の防災訓練も真剣に取り組むことができた。年間を通して防災マニュアルを職員・生徒に周知徹底させたい。
	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導、学習指導、進路指導においては、学年や分掌での話し合いをもとに、各教員が個々の生徒にきめ細かな対応ができています。 ・新テストに向けた取組については、引き続き状況の変化を見極めながらの対応が必要である。 ・教員の勤務時間については、鍵の管理や声掛けなどで意識が高まった結果、減少傾向にあり、健康維持に配慮した体制ができています。 	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導、学習指導及び進路指導を充実させ、信頼できる学校づくりを目指す指導が着実になされている。 ・地域のイベントにボランティアで積極的に参加している。
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価については、保護者と教員の評価が分かれる点があるので、しっかり連携することが望まれる。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の一層の習熟錬成を図りつつ、生徒個々の能力・適性・進路に応じた指導をするとともに、様々な情報を取り入れながら時代の変化を見据えた取組を行う必要がある。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事が充実し、学習指導・進路指導・生徒指導できめ細かな教育がなされている。 ・部活動と勉学の両立、良い仲間作りができる環境を学校と家庭で整えたい。 ・生徒が安全・安心な学校生活が送れるよう、交通事故の防止、交通マナー等の指導を引き続きお願いしたい。
学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成…学校評議員4名、校長、教頭2名、事務長 ・評価時期…3月上旬